

すずむし

Vol. 16, No. 1 (通巻99号) July, 1. 1966

倉敷昆虫同好会発行

連絡事務所 倉敷市幸町 倉敷昆虫館内

本部(倉敷市岡山大学大原農業生物研究所内)

広島県のハムシ相

大野正男

東洋大学生物学研究室

Ohno, M.: The Chrysomelid-Beetles from
Hiroshima Prefecture, Honshu, Japan

広島県のハムシ類については、大林・鳥居(1932), 大林(1934), 宮木・草薙(1936), 岩本(1937), 中条(1958), 大野(1960他), 保田(1964他), 大沢(1965), その他によつて報告されたものがあるが, その多くは断片的ないし小地域的記録で, まだ総括的な扱いをした論著は見当らないようである。筆者は1957年の8月, 中国地方のミミズ調査で本県を訪れた際, 比婆山で, また1959年5月, 屋久島調査の帰路, 宮島およびその対岸の大野町で, それぞれ1日づつ, 主としてハムシ科を対象に昆虫の採集調査を行なつた。しかし, これらの調査は時期的に遅すぎたり, 調査時間が短かすぎたりしたため, いずれのときにも満足できる成果は得られなかつた。そこで折を見て本格的調査をやつてみたいと考えていたが, 現在, 早急にその機会が訪れそうに思ないので, ここに筆者の得た資料を, ひとまず既往の知見と併せて記録し, 広島県のハムシ相を概観してみるとしたい。

本稿を草するに当たり, 2, 3の食草についてその種名をご教示いただいた東京大学教授倉田悟博士, 並びに, 1, 2の文献につきご便宜を賜つた農業技術研究所技官長谷川仁, 九州大学教養部教授宮本正一の両氏に対し, ここに改めて厚くお礼申し上げる次第である。

1. 広島県産ハムシ科目録

産地に附記した()内の人名はその報告者を示す。
文献は本稿末尾の文献欄を参照されたい。

食草は広島県において筆者の観察したものだけを記録した。食草の学名は原則として省略したが, 食草として新記録のものには学名も併記した。

Donaciinae

ネクイハムシ亜科

1. *Donacia lenzi* Schoenfeld

ガガブタネクイハムシ

産地: 山手(宮本・草薙).

2. *Donacia provostii* Fairmaire

イネネクイハムシ

産地: 野呂山(保田1964).

Criocerinae

クビホソハムシ亜科

3. *Lema adamsii* Baly

キベリクビホソハムシ

産地: 灰ヶ峯, 天徳峠(岩本1937), 吾(木元).

4. *Lema cirsicola* Chujo

アザミクビホソハムシ

産地: 緑川村, 天狗坊山, 白木山(宮本・草薙),

三段峠(中条), 比婆山(3exs., 10.VII. 1957, 大野).

食草: アザミの1種.

5. *Lema concinnipennis* Baly

キバラリクビホソハムシ

産地: 吾(保田1964), 大野町(2exs., 31.V.

- 1959, 大野).
食草: ツユクサ
6. *Lema decempunctata* Gellér
トホシクビキホソハムシ
産地: 湯島 (宮本・草薙), 山手町 (保田1964).
7. *Lema delicatula* Baly
キオビケビキソハムシ
産地: 天徳嶺 (宮本・草薙, 岩本1937), 東郷山 (岩本1937), 尾道 (保田1964).
8. *Lema diversa* Ealy f. *Lewisii* Baly
ツマキルリクビキホソハムシ
産地: 尾道 (大林), 三段峠, 三造, 天狗坊山 (宮本・草薙), 蓬見町 (保田1964), 大町 (1ex., 31. V. 1959, 大野).
食草: ツユクサ
- 8'. *Lema diversa* Ealy f. *nicrii* yuccae
アトモンクビキホソハムシ
産地: 尾道 (青山).
9. *Lema honorata* Baly
ヤマイモクビキホソハムシ
産地: 尾道 (大林・青山), 野見原山, 天竜崎, 川妻, 天狗坊山, 東齊山, 南原峠, 山手, 帝釈峠 (宮本・草薙), 吾 (保田1964), 比婆山 (1ex., 10. VIII. 1957, 大野).
食草: ヤマノイモ
10. *Lilioceris lewisi* (Jacoby)
ルイスクビナガハムシ
産地: 三段峠 (岩本1940).
11. *Lilioceris parvicollis* (Baly)
ホソクビナガハムシ
産地: 中山村 (宮本・草薙), 吾 (保田1964).
12. *Lilioceris subpolita* (Mojschulsky)
アカツヤクビナガハムシ
産地: 中山村, 八幡高原, 三段峠, 天狗坊山 (宮本・草薙), 吾 (保田1964), 白木山 (大沢), 比婆山 (1ex., 10. VIII. 1957, 大野).
食草: サルトリイバラ
13. *Lilioceris rugata* (Baly)
キイロクビナガハムシ
産地: 灰ヶ峯 (保田1964).
14. *Oulema oryzae* (Kuwayama)
イネクビキホソハムシ
産地: 山県, 比婆, 神石, 甲斐 (桑山), 三段峠 (宮本・草薙).
- Clytrinae
ナガツツハムシ亞科
15. *Clytra laeviuscula* Ratzeburg
ヨツボシナガツツハムシ
産地: 東郷山 (宮本・草薙), 灰ヶ峯 (保田1964).
16. *Smaragdina aurita* (Linné)
キボシナガツツハムシ
産地: 三段峠 (宮本・草薙), 灰ヶ峯 (保田1964).
17. *Smaragdina garretai* (Achard)
キムネナガツツハムシ
産地: 尾道 (大林), 山手 (宮本・草薙).
18. *Smaragdina nigritrons* (Hope)
クロオビナガツツハムシ
産地: 灰ヶ峯 (保田1964).
19. *Smaragdina nipponeensis* (Chūjo)
キイロナガツツハムシ
産地: 吾 (保田1964).
- Cryptocephalinae
ツツハムシ亞科
20. *Cryptocephalus approximatus* Baly
バラルリツツハムシ
産地: 尾道 (大林), 五日市, 泉水岬, 東郷山, 仏嶺, 三段峠, 刈尾山, 阿生山, 天狗坊山, 白木山, 灰ヶ峯, 山手 (宮本・草薙), 吾 (保田1964) 大野町 (1ex., 31. V. 1959, 大野).
21. *Cryptocephalus bilineatus* Linné
フタスジツツハムシ
産地: 灰ヶ峯, 帝釈峠 (宮本・草薙).
22. *Cryptocephalus fortunatus* Baly
キアシアオツツハムシ
産地: 吾 (保田1964), 比婆山 (2exs., 10. VIII. 1957, 大野).
食草: コナラ
23. *Cryptocephalus japonicus* Baly
ヤツボシツツハムシ
産地: 灰ヶ峯, 帝釈峠 (宮本・草薙).
24. *Cryptocephalus nigrofasciatus* Jacoby
タテスジキツツハムシ
産地: 灰ヶ峯 (宮本・草薙).
25. *Cryptocephalus nobilis* Kraatz
ヨツモシクロツツハムシ
産地: 野呂山, 灰ヶ峯 (保田1964).
26. *Cryptocephalus obliquostriatus* Mojschulsky
セスジツツハムシ
産地: 比婆山 (1ex., 10. VIII. 1957, 大野).
27. *Cryptocephalus perelegans* Baly
キボシツツハムシ

- 産地：灰ヶ峯（宮本1937），呉（保田1964）。
28. *Cryptocephalus pustulipes* Menetries
コヤツボレツツハムシ
産地：帝釈峠（宮本・草薙）
29. *Cryptocephalus scitulus* Baly
カシワツツハムシ
産地：比婆山（lex., 10. VIII. 1957, 大野）。
食草：コナラ。
30. *Cryptocephalus signaticeps* Baly
クロホシツツハムシ
産地：尾道（大林），五口市，極楽寺山，温品村，
山手，三滝，天坊狗山，灰ヶ峯（宮本・草薙），
呉（保田1964）。
31. *Cryptocephalus tetradecaspilotus* Ealy
ジユシホシツツハムシ
産地：聖山（宮本・草薙），野呂山（保田1964）。
32. *Pachybrachys eruditus* Baly
ハギツツハムシ
産地：阿生山（宮本・草薙），比婆山（lex., 10.
VIII. 1957, 大野）。
食草：ヤマハギ。
- Chlaniinae
コブハムシ亞科
33. *Chlamisus spilotus* (Baly)
クスギコブハムシ
産地：尾道（大林），東郷山，宇品，天狗坊山，
阿生山，三滝，灰ヶ峯（宮本・草薙），三段峠
(中条)，比婆山（幼虫，10. VIII. 1957, 大野），
食草：コナラ。
- Lamprosominae
ツヤハムシ亞科
34. *Oomorphoides cupreatus* (Baly)
ドウガネツヤハムシ
産地：江波，東郷山（宮本・草薙），巖島（結城）
三段峠（中条），呉（保田1964），白木山（大沢），
比婆山（9exs., 10. VIII. 1957, 大野），宮島（64
exs., 31. V. 1959, 大野）。
食草：タラノキ
34. *Oomorphoides cupreatus* f. *yuasai* Ohno
オツヤハムシ
産地：比婆山（5exs., 10. VIII. 1957, 大野）。
食草：タラノキ。
35. *Oomorphoides nigrocoeruleus* (Baly)
アオグロソヤハムシ
- 産地：白木山（大沢）。
36. *Oomorphus japonicus* Jacoby
ヒメドウガネツヤハムシ
産地：三段峠（中条）
- Synetinae
ホゾハムシ亞科
37. *Syneta adamsi* Ealy
カバノキハムシ
産地：尾道（青山），野呂山（保田1964），白木
山（大沢）。
- Eumolpinae
ナルハムシ亞科
38. *Acrothinium gaschkevitschii*
(Motschulsky)
アカガネナルハムシ
産地：尾道（大林），河生山，東郷山，天狗坊山，
白木山，帝釈峠，灰ヶ峯（宮本・草薙）三段峠
(中条)，呉（保田1964），宮島（10exs., 31. V.
1959, 大野）。
食草：ブドウ。
39. *Basilepta fulvipes* (Motschulsky)
アオバネサルハムシ
産地：阿生山，聖山，天狗坊山，（宮本・草薙）灰ヶ
峯（保田1964），比婆山（2exs., 10. VIII. 1957, 大野）。
食草：ヨモギ。
- 39'. *Basilepta fulvipes* f. *aenepenne*
Motschulsky
産地：江波（宮本・草薙）。
40. *Basilepta hirticollis* (Baly)
ムナゲクロサルハムシ
産地：宮島（17exs., 31. V. 1959, 大野）。
食草：ソヨゴ *Ilex pedunculosa* Miq.
41. *Basilepta pallidulum* (Baly)
スギサルハムシ
産地：呉（保田1964）。
42. *Cleoporus variabilis* (Baly)
ヒトミヒメサルハムシ
産地：野呂山（保田1964），比婆山（2exs., 10.
VIII. 1957, 大野）。
食草：ヤマハンノキ，*Alnus hirsuta* Turcz.
var. *sibirica* Schneid.
43. *Colaspisoma dauricum* Mannerheim
イモサルハムシ
産地：尾道（青山），灰ヶ峯（保田1964）。

- 大野町 (1ex., 31. V. 1959, 大野).
食草: ヒルガオ.
41. *Colpocephalis signata* (Motschulsky)
ヒメキバネサルハムシ
産地: 野呂山 (保田1964), 大野町 (1ex., 31. V. 1959, 大野).
食草: シロツメクサ.
45. *Demotina fasciculata* Baly
マグラカサハラハムシ
産地: 宮島 (1ex., 31. V. 1959, 大野).
46. *Lypesthes ater* (Motschulsky)
コフキサルハムシ
産地: 東郷山 (宮本・草薙), 南京峡 (岩本1937),
灰ヶ峯 (保田1964).
47. *Nodina chalcosoma* Baly
アオガネサルハムシ
産地: 呉 (保田1964).
48. *Sceladonta lewisii* Baly
ドウガネサルハムシ
産地: 呉 (保田1964), 大野町 (1ex., 31. V.
1959, 大野).
食草: ヤブカラシ.
49. *Trichochrysea japonica* (Motschulsky)
トビサルハムシ
産地: 上原地, 天狗坊山, 白木山 (宮本・草薙),
螺山 (保田1964).
- Chrysomelinae
ハムシ亞科
50. *Chrysolina aurichalcea collaris* Weise
ヨモギハムシ
産地: 尾道 (大林), 呉 (保田1964), 比婆山
(1ex., 10. VIII. 1957, 大野).
食草: ヨモギ.
51. *Chrysolina exanthematica* (Wiedemann)
ハツカハムシ
産地: 三滝, 石内村, 泉水岬, 山木村, 灰ヶ峯
(宮本・草薙).
52. *Chrysomela populi* Linné
ドロノキハムシ
産地: 三段峡 (宮本・草薙), 呉 (保田1964).
53. *Chrysomela vigintipunctata costella*
Marsoul
ヤナギハムシ
産地: 尾道 (大林), 五日市, 三滝, 山木村, 長
東村, 芳野山, 山手, 阿生山 (宮本・草薙), 西
条町 (中沢).
54. *Gastrolina depressa* Baly
クルミヒラタハムシ
産地: 三段峡 (中条), 呉 (保田1964).
55. *Gastronoides japonicus* (Harold)
キイロヒラタハムシ
産地: 比婆山 (1ex., 10. VIII. 1957, 大野).
食草: イヌシデ.
56. *Gonioctena nigroplagiata* Baly
ヤツボシハムシ
産地: 尾道 (大林).
57. *Gonioctena rubripennis* Baly
フジハムシ
産地: 尾道 (大林) 上原地, 灰ヶ峯, 山木村, 仏峠,
泉水岬, 三段峡, 已斐, 阿生山, 天狗坊山, 灰ヶ
峯, 帝釈峡 (宮本・草薙), 嵐島 (結城), 三段
峡 (中条), 白木山 (大沢), 大野町 (1ex., 31.
V. 1959, 大野).
食草: ノダフジ.
58. *Linaeidea aeuea aeuea* (Linné)
ルリハムシ
産地: 比婆山 (2exs., 10. VIII. 1957, 大野).
食草: ヤマハンノキ.
59. *Phaedon brassicae* Baly
ダイコンハムシ
産地: 尾道 (青山), 呉 (保田1964).
60. *Plagiodera versicolora distincta* Baly
ヤナギルリハムシ
産地: 三段峡 (宮本・草薙; 中条), 三滝, 已斐,
原村, 山手, 阿生山 (宮本・草薙), 呉 (保田1964)
宮島 (15exs., 31. V. 1959, 大野), 比婆山
(18exs., 10. VIII. 1957, 大野).
食草: ヤナギの1種, ネコヤナギ.
- Galerucinae
ヒゲナガハムシ亞科
61. *Agelasa nigriceps* Motschulsky
キクビアオハムシ
産地: 三段峡 (宮本・草薙; 中条), 聖山 (宮本
草薙), 呉 (保田1964), 比婆山 (2exs., 10. VIII.
1957, 大野).
食草: サルナシ
62. *Arthrotus niger* Motschulsky
カワリヒゲナガハムシ
産地: 三段峡 (岩本1937; 中条), 呉 (保田1964)
比婆山 (1ex., 10. VIII. 1957, 大野).
食草: ヤマハンノキ.

63. *Atrachya menetriesi* (Faldermann)
ウリハムシモドキ
産地: 江波(宮本・草薙), 吾(保田1964), 北婆山(4exs., 10. VII. 1957, 大野).
食草: オオバコ.
65. *Atrachya menetriesi* f. *discrepans* Baly
産地: 帝釈峠, 広島市(岩本1937).
64. *Aulacophora femoralis* (Motschulsky)
ウリハムシ
産地: 尾道(大林), 山本村, 五日市, 宇品, 三滝, 原村, 中山村, 天狗坊山, 山手(宮本・草薙), 新宮町(保田1964), 宮島(2exs., 31. V. 1959, 大野).
食草: カラスウリ.
65. *Aulacophora nigripennis* Motschulsky
クロウリハムシ
産地: 尾道(大林), 江波, 三滝, 東郷山, 山手, 天狗坊山(宮本・草薙), 三段峠(中条), 灰ヶ峯(保田1964), 北婆山(1ex., 10. VII. 1957, 大野).
食草: カボチャ.
66. *Cneorane elegans* Baly
キムネアオハムシ
産地: 灰ヶ峯(保田1964).
67. *Exoscma flativentre* (Motschulsky)
キバラヒメハムシ
産地: 帝釈峠(岩本1937).
68. *Fleutiauxia armata* (Baly)
クフハムシ
産地: 五日市, 上栗町, 灰ヶ峯, 三滝, 天狗坊山, 帝釈峠(宮本・草薙), 三段峠(宮本・草薙; 中条), 吾(保田1964), 白木山(大沢), 大野町(1ex., 31. V. 1959, 大野).
69. *Galerucella nipponensis* Laboissiere
ヒシハムシ
産地: 聖山(宮本・草薙).
70. *Galerucella vittaticollis* (Baly)
イチゴハムシ
産地: 尾道(大林), 宮島市, 江波, 三滝(宮本・草薙), 吾(保田1964), 宮島(2exs., 31. V. 1959, 大野).
食草: ミゾソバ.
71. *Galerucida bifasciata* Motschulsky
イタドリハムシ
産地: 三滝, 温品, 雲見原山, 阿生山, 山手, 天狗坊山, 白木山, 灰ヶ峯, 帝釈峠(宮本・草薙), 吾(保田1964), 大野町(1ex., 31. V. 1959, 大野).
食草: ギシギシ.
72. *Galerucida flavipennis* Solsky
ノブドウハムシ
産地: 白木山(大沢).
73. *Hesperomorpha hirsuta* (Jacoby)
ケブカクロナガハムシ
産地: 三段峠(中条).
74. *Liroetis coeruleipennis* (Weise)
ルリバネナガハムシ
産地: 三段峠(中条), 野呂山(保田1964), 白木山(大沢).
75. *Monolepta dichrorum* Harold
ホタルハムシ
産地: 三滝, 緑井村, 天辺淡, 八幡高原, 聖山(宮本・草薙), 吾(保田1964).
76. *Monolepta pallidulum* (Baly)
キイロクワハムシ
産地: 本郷山, (岩本1937).
77. *Monolepta quadriguttatum* (Motschulsky)
ヨツモシアシナガハムシ
産地: 天狗坊山(宮本・草薙).
78. *paraluperodes nigrobilineatus* (Motschulsky)
フタヌクヒメハムシ
産地: 三滝(宮本・草薙), 白木山(岩本1937).
79. *Paridea angulicollis* (Motschulsky)
アトボシハムシ
産地: 恵下, 備前坊山(宮本・草薙), 吾(保田1964), 大野町(2exs., 31. V. 1959, 大野).
食草: アマチャヅル.
80. *Paridea quadriplagiata* (Baly)
ヨツボシハムシ
産地: 尾道(大林).
81. *Pyrrhalta esakii* Kimoto
ブチヒゲウスバハムシ
産地: 野呂山(保田1964).
82. *Pyrrhalta humeralis* (Chen)
サンゴジユハムシ
産地: 北婆山(1exs., 10. VII. 1957, 大野).
食草: ガマズミ.
83. *Pyrrhalta tibialis* (Baly)
エノキハムシ
産地: 灰ヶ峯(保田1964).
84. *Stenoluperus nipponensis* (Laboissiere)
ヒゲナガウスバハムシ
産地: 東郷山(岩本1937), 三段峠(中条).

85. *Altica caeruleocincta* (Baly)
ヒメカミナリハムシ
産地：大野町 (lex., 31. V. 1959, 大野).
食草：エノキグサ.
86. *Altica cyanea* (Weber)
カミナリハムシ
産地：呉 (保田1961).
食草：エノキグサ.
87. *Altica oleracea* (Linne)
ホソカミナリハムシ
産地：比婆山 (lex., 10. VIII. 1957, 大野).
食草：オオマツヨイグサ.
88. *Altica viridicyanea* (Baly)
コカミナリハムシ
産地：天狗坊山，茶臼山，三段峠，帝釈峠，(宮本・草薙)，野間園 (保田1964)，大野町 (lex., 31. V. 1959, 大野).
食草：ゲンノショウコ.
89. *Aphthona permixta* Baly
ツブノミハムシ
産地：三段峠 (中条)，野呂山 (保田1964)，白木山 (大沢)，宮島 (lex., 31. V. 1959, 大野).
食草：エノキグサ.
90. *Aphthona semitiridis* Jacoby
キアシツブノミハムシ
産地：三段峠 (中条).
食草：エノキグサ.
91. *Aphthona strigosa* Baly
サメハダツブノミハムシ
産地：三段峠 (中条)，宮島 (lex., 31. V. 1959, 大野).
食草：アカメカガワ.
92. *Aphthonalicta angustata* (Baly)
ニセカミナリハムシ
産地：宮島 (2exs., 31. V. 1959, 大野).
食草：アケビ.
93. *Argopus nigritarsis* (Gebler)
オオアカマルノミハムシ
産地：三滝，野見原山，三段峠，天狗坊山，備前坊山 (宮本・草薙)，呉 (保田1964)，白木山 (宮本・草薙；大沢).
食草：エノキグサ.
94. *Argopus punctipennis* (Motschulsky)
キイロマルノミハムシ
産地：尾道 (青山)，己斐，泉水岬，天狗坊山，仙手，阿生山 (宮本・草薙)，三段峠 (中条)，灰ヶ峯 (保田1961)，呉 (中条).
食草：エノキグサ.
95. *Clactocnema concinnicollis* (Baly)
ヒメドウガネノミハムシ
産地：大野町 (lex., 31. V. 1959, 大野).
食草：エノキグサ.
96. *Clactocnema discreta* (Baly)
キイチゴトビハムシ
- 産地：宮島 (lex., 31. V. 1959, 大野).
食草：エノキグサ.
97. *Hemipyxis flavipennis* (Baly)
キバネマルノミハムシ
産地：三段峠 (中条)，呉 (保田1964)，宮島 (2exs., 31. V. 1959, 大野).
食草：イボタ，ネズミモチ.
98. *Hemipyxis plagicderoides* (Motschulsky)
ヒゲナガルリマルノミハムシ
産地：三段峠 (中条)，大野町 (lex., 31. V. 1959, 大野).
食草：ムラサキシキブ.
99. *Hermaeophaga adamsii* Baly
ヒメトリビハムシ
産地：大野町 (2exs., 31. V. 1959, 大野).
食草：エノキグサ.
100. *Lipromela minutissima* (Pic)
セスジトビハムシ
産地：三段峠 (中条).
101. *Longitarsus bimaculatus* (Baly)
クロホシアシナガトビハムシ
産地：宮島 (2exs., 31. V. 1959, 大野).
食草：エノキグサ.
102. *Longitarsus lewisi* (Baly)
オオバコアシナガトビハムシ
産地：宮島 (lex., 31. V. 1959, 大野)，比婆山 (lex., 10. VIII. 1957, 大野).
食草：オオバコ.
103. *Longitarsus quadraticollis* Jacoby
ムラサキシキブアシナガトビハムシ
産地：比婆山 (2exs., 10. VIII. 1957, 大野)，宮島 (lex., 31. V. 1959, 大野).
食草：ムラサキシキブ.
104. *Luperomorpha funesta* (Baly)
クワノミハムシ
産地：比婆山 (5exs., 10. VIII. 1957, 大野).
食草：クワ.
105. *Luperomorpha tenebrosa* (Jacoby)
キアシノミハムシ
産地：三段峠 (中条).
106. *Neocrepidodera recticollis* (Jacoby)
カクムネチビトビハムシ
産地：宮島 (lex., 31. V. 1959, 大野).
食草：コナスビ.
107. *Nonarthra cyaneum* Baly
ルリマルノミハムシ
産地：天狗坊山，灰ヶ峯 (宮本・草薙)，呉 (保田1961)，比婆山 (lex., 10. VIII. 1957, 大野).
108. *Ogloblinia flavidornis* (Baly)

- ウスグロチビカミナリハムシ
産地：宮島 (8exs., 31. V. 1959, 大野).
食草：ハスノハカズラ.
109. *Phygasia fulvipennis* (Ealy)
ガガイモトビハムシ
産地：灰ヶ峯 (保田1964).
110. *Phyllotreta striolata* (Fabricius)
キスジノミハムシ
产地：尾道 (大林), 天狗坊山, 可生山, 白木山,
灰ヶ峯, 比婆山 (宮本・草薙), 吳 (保田1964),
比婆山 (5exs., 10. VII. 1957, 大野).
食草：ダイコン.
111. *Pseudoliprus hirtus hirtus* (Baly)
クビホソトビハムシ
産地：三段峡 (中条), 宮島 (9exs., 31. V.
1959, 大野).
食草：ツタ.
112. *Psylliodes angusticollis* Baly
ナスノミハムシ
产地：大野町 (3exs., 31. V. 1959, 大野).
食草：ヒヨドリジヨウゴ.
113. *Psylliodes difficilis* (Baly)
ルリナガスネトビハムシ
产地：白木山 (大沢).
114. *Psylliodes punctifrons* (Baly)
ナノミハムシ
产地：三段峡 (中条).
115. *Sangariola punctostriata* (Motschulsky)
カタクリハムシ
产地：三段峡 (宮本・草薙; 中条).
116. *Sphaeroderma apicale* Baly
ツマキタマノミハムシ
产地：白木山 (大沢).
117. *Sphaeroderma fuscicorne*
f. *placidum* (Harold)
センニンゾウタマノミハムシ
产地：三段峡 (中条), 比婆山 (3exs., 10. VII.
1957, 大野).
118. *Trachyphlytona sordida* (Baly)
ヒゲナガヒラタノミハムシ
产地：宮島 (lex., 31. V. 1959, 大野).
食草：ヘクソカズラ.
119. *Zipanginia picipes* (Baly)
チビカミナリハムシ
产地：三段峡 (中条)
- Cassidinae
カメクコハムシ亞科
120. *Aspidomorpha difformis* Motschulsky
ジンガナハムシ
产地：三滝, 白木山, 天狗坊山 (宮本・草薙).
121. *Aspidomorpha transparifennis*
Motschulsky
スキバシンガサハムシ
产地：灰ヶ峯 (保田1964).
122. *Cassida erudita* Baly
ヤマトアオカメノコハムシ
产地：三段峡 (安富; 中条).
123. *Cassida fuscorufa* Motschulsky
ヨモギカメノコハムシ
产地：天狗坊山, 灰ヶ峯 (宮本・草薙).
124. *Cassida japonica* Baly
イノコズチカメノコハムシ
产地：野呂山 (保田1964), 宮島 (5exs., 31.
V. 1959, 大野).
食草：イノコズチ.
125. *Cassida nebulosa* Linné
カメノコハムシ
产地：尾道 (大林), 吳 (保田1964), 比婆山
(2exs., 10. VII. 1957, 大野).
126. *Cassida sigillata* Gorham
イカリヒメジンガサハムシ
产地：吳 (保田1964).
127. *Cassida versicolor* Boheman
セモンジンガサハムシ
产地：尾道 (林), 宇品, 本郷山 (宮本・草薙)
野呂山, 灰ヶ峯 (保田1964).
127. *Casiida versicolor*
f. *crucifera* kraatz
产地：宇品, 東郷山 (宮本・草薙).
128. *Thlaspida biramosa Jponica* Spaeth
イチモソジカメノコハムシ
产地：東郷山, 恵下, 不明宮林 (宮本・草薙),
三段峡 (宮本・草薙; 中条), 野呂山, 灰ヶ峯
(保田1964), 宮島 (5exs., 31. V. 1959, 大野).
食草：ムラサキシキブ.
- HisPinae
トゲハムシ亞科
129. *Dactylispa angulosa* (Solsky)
ヒメキベリトゲトゲ
产地：尾道 (青山), 可生山, 聖山, 三滝, 天狗坊山 (宮本・草薙), 灰ヶ峯 (宮本・草薙; 保田1964).
130. *Dactylispa mascmi* Gestro
キベリトゲトゲ

- 産地：呉（保田 1961）
 131. *Darvillista subgularis* (Daly)
 カタピコトゲトテ
 產地：尾道（大林），宇品，上栗地，河生山，南
 木山，櫛頭坊山，天狗，天狗坊山，灰ヶ峯，帝明
 岩（宮本・草薙），呉（保田 1961）。
132. *Rhodnius nigricyanus* (Motschulsky)
 クロルリトケトテ
 產地：東郷山，吹屋町，三段峠，豊山，灰ヶ峯
 （宮本・草薙），呉（保田 1961），比婆山（5exs.,
 10. VIII. 1957, 大原），
 食性：ススキ。

II. 広島県のハムシ相概観

本報に記録したハムシは、既記述のものを含めて合計 132 種となつた。この数は少ない数ではないが、実際に広島県に棲息するハムシは 200 種以上になると推定できるので、今後記述される種も少くないであろう。したがつて、広島県のハムシ相を考察するには、まだ、その段階でないように考えられるが、ここでは可能な範囲で 2, 3 の見解を述べてみたいことにしたい。

1. 既記録種の検討

既記録種の中には筆者の記述していないものが多数ある。その大部分は正しい記録と考えられるが、2, 3, 疑問種も含まれているので、はじめに、この点について検討してみよう。

Cryptocephalus sexpunctatus :
 本邦における本種の確実な産地は北海道だけで、現在のところ本州はその産地から除外されている。大林（1931），宮本・草薙（1933）などにより記録された本種は、すべて近似の *Cryptocephalus signaticeps* に訂正すべきと考えられる。

Goniclenna nigroplagiata :
 本種は大林（1931）により尾道から記録されている。本種がここに産することは少しも不思議でないが、この問題が松村（1931）の日本昆蟲大圖鑑に基づいたものであれば *Gonioctena rubripennis* f. *plagipennis* の誤りである可能性が強い。

Altica cyanea :
 本場には本種に該当する種として *Altica himalayensis japonica* が記述する。*cyanea* は本種間によりばれ、九州に（東北アジアにてよく分布する）、また *himalayensis japonica* はそれより北に分布す

るので、広島に *Cyanea* の分布することは不思議でないが、筆者は岡山県の倉敷附近にて *himalayensis japonica* の方を確認しているので、[†] 広島にもこの種が分布している可能性がある。保田（1964）により且より記録された本種は再検の必要がある。（両種とも発する可能性もある）

Altica viridicyanea :

本種は筆者も採集しているので、これが広島県に産することは確かであるが、保田（1964）が呉の野間田より報告した本種はネコヤナギで得たという。本種はゲンノショウコのみ食し、他の植物を食草にすることはないので、もし保田の報告した個体が実際にネコヤナギを食っていたとすれば、その個体は *viridicyanea* でない可能性が強い。ヤナキ類を食う *Altica* としては *A. latericosta subcostata* Ohno があるので、あるいはこの種の誤りであるかもしれない。この種は広島県より未知であるが、本州、四国、九州に分布し筆者は山口県の森目辺りで採集しているので、広島に産しても不思議でない。

Monolepta quadriguttatum :

岩本（1937）が正誤表より記録した *Luperodes quadriguttatus* はその附図より判断すると、*Arthrotus niger* の 1 型を誤って同定したものであることがわかる。宮本・草薙（1936）の記録（天狗坊山）は種名しか記されていないので横訳のしようがないが、この種は本州にも産し、広島県に産する可能性は充分にあるので、この方はそのまま引用することにした。

なお、広島県のハムシ中には、そのハムシが記録された当時と種名が変っているものがある。それらはそれぞれ新しい種名により目録を作つたが、その内訳を示すと次のようになる。（ただし、固だけの変更はこれに入れないと）

- Lema puncticollis* → *cirsicola*.
- Cyaniris japonica*, *cyanea* → *Smaragdina garretai*.
- Cryptocephalus instabilis* → *pustulipes*.
- Gastrolina thoracica* → *depressa*.
- Phaedon incertum* → *brassicae*.
- Luperodes praeustus* → *Atrachya menetriesi*.
- Galerucella distincta* → *vittaticollis*.
- Galerucella aquatica* → *nipponensis*.
- Galerucida nigromaculata* → *bifasciata*.
- Galerucida melanocephala* → *flavipennis*.
- Luperus jacobyi* → *Stenoluperus nipponensis*.
- Argopus clypeatus* → *nigritarsis*.
- Argopus orientalis*, *varistis* → *punctipennis*.

[†] 大林（1965）廣島府のハムシ類、すずむし、VIII. (3) pp. 23~28.

- Liprcmela costata* → *minutissima*.
Phyllotreta vittata → *striolata*.
Sangaricla n.vitticosta → *punctatostriatus*.
Cassida viridis japonica → *eruditia*.
Metriona thais → *Cassida versicolor*

2. 興味ある広島県産のハムシ類

- 1) *Liprcmela minutissima* (Pic)
 セスジトビハムシ：
 本種は日本唯ハムシ類中、特に珍稀と呼べる種の1つであり、既知産地として福島、東京（原産地）、愛媛、福岡が挙げられるだけである。広島県では三段峡に本種が産する（中条、1958）。しかも、ここでは他の産地と違い、かなり多産することであるから、この点特に注目されてよいであろう。
- 2) *Neocrepidoderma recticollis* (Jacoby)
 カクムネチビトビハムシ：
 本種も既知産地の少ない種であるが、筆者は広島において本種を得、かつ、その食草（コナズビ）を確認することができた。
- 3) *Cryptoccephalus perelegans* Baly
 キボシツツハムシ：
 九州以南の島嶼に行くと、いやになるほどとれるツツハムシであるが、本州では極めて珍らしい種である。東京附近の山でも採集できることがあるが、近畿以東のものは別亜種と考えられるので、原亜種としては広島辺りが北限に近い産地といえよう。広島では灰ヶ峯、呉が産地として知られている。
- 4) *Cryptocephalus pustulipes* Ménétries
 コヤツボシツツハムシ：
 本種は岩手県辺りではやや低地でも見られるが、東京附近ではかなり山地に入つて行かないと見出せない。宮本・草薙（1936）は本種を帝釈峡より報じた。興味深い産地である。四国、九州には発見されていない。
- 5) *Lilioceris lewisi* (Jacoby)
 ルイスクビナガハムシ：
 本種は本州と四国の山地帯に分布し、所によつては（例えば伊吹山など）多産するところもあるが、概して珍らしいハムシである。岩本（1940）は三段峡より本種を報じている。幼虫、成虫ともユリ科植物をかなり広く食草にしているので、注意してみたら広島県にも多産地が発見できるかもしれない。
- 6) *Atrachya menetriesi* (Faldermann)
 ウリハムシモドキ：
 本種には二色の異なる原型（これは翅端全体が黒いは基部に黄褐色がある）の他に、同一同色（翅膀は

黄褐色だけが黒い）の *discrepans* 型があるが、筆者が比婆山で得た個体はすべて原型であつた。しかし岩本（1939）は同じ広島県で、広島市郊外および帝釈峡より *discrepans* 型を記録している。原型の方は一般に日本海指数の大きい地方に分布し、*discrepans* 型と分布図を異にするが、広島県に両型が分布することは興味深い。県内における両者の分布型を明らかにしたいものである。

- 7) *Oomorphoides cupreatus* (Ealy)

ドウガネツヤハムシ：

本種にはドウガネ系の原型の他に、*yusai* と呼ばれるオアグロ系の型がある。広島では本種を64個体得たが、これらが全部原型であつたのに、同じ県内でも比婆山で得たものには両型が混つていた（原型9：*yusai* 5）。この混棲率が県内でどのように変化するかも、興味深い研究課題になろう。

- 8) *Cassida versicolor* f. *crucifera* Kraatz

セモンシンガサハムシ：

セモンシンガサハムシの中、翅鞘扁平線に帶状紋の現われないこの型は、九州、四国には普通であるが、本州では紀伊半島、伊豆半島など暖地にのみ知られ、東京附近以北には全く見られないものである。宮本・草薙（1936）によると、宇品、東郷山などには原型とともに、この型も産するようである。県内において、両型がどのように分布しているかを調べることは、興味深い研究課題となろう。筆者の島根県における調査経験では、三瓶山などには、三瓶山などには *crucifera* は見られなかつた。広島県では沿岸地と山間地で相違が見られそうな気がする。

- 9) *Pseudoliprus hirtus hirtus* (Baly)

クビホソトビハムシ：

本種には♀♀で色彩の異なる原亜種の他に♀♀同色の亜種 *flaviceps* があるが、広島県には原亜種の方が産するようである。*flaviceps* は兵庫以東に分布するので本種の分布型からみると、広島県は四国西部、九州などと共に、完全な西日本帯に入ることになる。

3. 広島県のハムシ相構成要素

前述の如く、広島県には132種のハムシが産することになるが、これらハムシ類中には広島県固有の種、亜種など全くなく、大部分のものが北海道より九州にかけて広い分布図をもつ普通種であった。しかし *Lema delicatula*, *Cryptocephalus tetradecaspis*, *Basilepta hirticolle*, *Basilepta fulvipes* f. *aeneipenne*, *Cleoporus variabilis*, *Nodina chalcosoma*, *Altica viridicyanea*, *Aphthona*

strigosa, *Argopus nigritarsis*, *Longitarsus bimaculatus*, *Zipanginia picipes*, *Cassida versicolor* L., *crucifera* などのように、大体東京附近を東北限とする種、*Smaragdina nippocensis*, *Smaragdina viridis*, *Cryptocephalus forcipatus*, *Menclipta quadriguttatum*, *Lircetis ciceruleipennis* などのように、大竹、岐阜附近を東限とする種、更に *Pseudoliprus hirtus*, *hirtus* のように兵庫県を東限とする種などが見られ、全般的には西日本の色彩がかなり強く現われている。

これに対し、山間地には、北道海より本州、あるいは四国、九州の山地帯に分布し、その多くがシベリア地方に起源をもつと考えられる、いわゆる寒地系の種がかなり多く見出せる。例えば *Lilioceris lewisii*, *Clytra laeviuscula*, *Smaragdina aurita*, *Cryptocephalus bilineatus*, *Cryptocephalus obliquostriatus*, *Cryptocephalus pustulipes*, *Syneta adamsoni*, *Chrysomela populi*, *Gastronoides japonicus*, *Linaeidea aenea*, *Stenoluperus nippensis* などがこれに入る。

更にまた、裏日本要素として *Atrachya menetriesi* (原型), *Oulema oryzae*などを挙げることもできる。

以上の諸点を総合すると、広島県のハムシ相は、日本列島全体に広く分布する一般種を基盤とし、これに本州中部附近にまで東進している中部あるいは南部支那系の種を混え、更に山間部には山地性ないし裏日本系の種を収容し、全体としてかなり複雑なファウナを形成しているということができるようである。

4. 県北と南の地域性とその境界線

Atrachya menetriesi, *Oomorphoides cupreatus*, *Cassida versicolor* などの分布の項で述べたように、これら各々の種に属する色彩型は、瀬戸内海に面する県南地域と、中国山脈に連なる県北地域とで、その分布のしかたにかなりはつきりした相違が見られるようである。この境界線は、恐らく既に知られているニジユウヤホシテントウとオオニジユウヤホシテントウの分布境界線に近いものとなるであろう。そうして、それは広島県のハムシ相を約する上に重要な意義をもつものと考えられる。しかし、残念ながら広島県のハムシ相に関する見見は、まだこれらの点にまで論及できるほど充分でないので、ここには、1つの問題を提起するだけにして事をおくことにする。

文 献

- 1) 青山省三 (1935) 尾道附近産甲虫類目録の追加、博物、V (1), pp. 14~17.
- 2) Chūjo, M. & M. Ohno (1965) A revision of *Luperomorpha*-species occurring in Japan and the L.-o-Choo-islands, Mem. Fac. Lib. Arts Educ. Kagawa Univ., II, (131) pp. 1~16.
- 3) 中条道夫 (1958) 安芸の三段峡のハムシ類、新見虫、XI (1), pp. 43~44.
- 4) 広島農試 (1916) 大正4年度業務功程報告、pp. 22~23.
- 5) 岩本新一 (1937) 広島附近の金花虫数種、広島昆虫同好会々誌、III (1), pp. 25~31.
- 6) ——— (1940) レウスハムシ *Crioceris lewisi* の新産地、昆虫研究、III (1・2), pp. 22.
- 7) Kimoto, S. (1964) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu islands, II, Journ. Fac. Agr. Kyushu Univ., X (1), pp. 119~135.
- 8) 小坂敏和 (1963) 岐附近の鞘翅目、大自然、11, pp.
- 9) 桑山 覚 (1932) 稲泥負虫に関する研究第二報、稻泥負虫の分布、北海道農試報告、29, pp. 73~96.
- 10) 宮本正一・草薙忠明 (1936) 広島県産甲虫目録、広島昆虫同好会々誌、III (1-2), pp. 1~16.
- 11) 中村慎吾・藤原 仁 (1956) イネドロオイムシの生態、比婆科学、X (1), pp. 6~9.
- 12) 中沢啓一 (1963) ニホンアマガエルに捕食された昆虫類、広島虫の会々報、2, pp. 57~58.
- 13) 大林一夫・鳥居 茂 (1932) 尾道附近の甲虫類 (四), 博物、II (2~3), pp. 42~61.
- 14) 大林一夫 (1934) 尾道附近産甲虫類目録 (二), 博物、III (2), pp. 1~23.
- 15) Ohno, M. (1960) On the species of the genus *Altica* occurring in Japan, Bull. Dept. Lib. Arts, Toyo Univ., I, pp. 77~95.
- 16) ——— (1960) 日本産 *Liparus* 属について、日本生物地理学会々報 XVI (4), pp. 33~44.
- 17) ——— (1961) Note on the species of *Lamprosominae* occurring in Japan and the Loo-Choo, Ent. Rev. Japan, XIII

- (2), pp. 47~52.
- 18) _____ (1961) On the species of the genus *Trachyaphthona* and the new genus *Sphaerallica*, Bull. Dept. Lib Arts, Toyo Univ. 2, pp. 73~90.
- 19) _____ (1962) On the species of the genus *Aphthona* occurring in Japan and the Loo-Choos, Bull. Dept. Lib. Arts, Toyo Univ. 3, pp. 61~84.
- 20) _____ (1964) Revision of *Sphaeroderma*-species occurring in Japan and the Loo-Choos, J. Toyo Univ., Gen. Educ. (Nat. Sci.), 5, pp. 29~60.
- 21) 大沢省三 (1955) 広島の甲虫雑記 (1), 広島虫の会々報, 4, pp. 91~95.
- 22) 岡田 刚 (1961) スギハムシの生態調査, 広島林業試験場報告, 37, pp. 138~145.
- 23) 小貫信太郎 (1893) 害虫分布の状況, 大日本農会報 174, pp. 10~12.
- 24) 田口英茂・瀬々頭・小坂仁政 (1963) 岐阜市附近の昆虫 (第1報), 大自然, 10, pp. 1~10.
- 25) 保田信紀 (1961) 岐阜市附近の昆虫, pp. 1~10.
- 26) _____ (1964) 岐阜市附近のハムシ類, 広島虫の

会々報, 3, pp. 75~78.

- 27) 安富和男 (1952) 本邦産カメノコハムシに関する知見, 昆虫, 19 (3・4), pp. 93~99.
- 28) 結城次郎 (1938) 安芸國嚴島昆虫資料, 広島昆虫同好会々誌, 4 (2), pp. 9~21.

補遺 本稿脱稿後次の2文献を見る機会を得た。

ここに補いとして追録すると同時に、これら貴重な文献のご高配に与つた広島大の佐藤月二氏にお礼申し上げる。

① 青山省吾・佐藤月二・後藤孝彦 (1959) 三段缺・八橋高原の昆虫日録, 三段缺と八橋高原, pp. 336~344 (ref. p. 342).

② 佐藤月二・水岡繁登・後藤孝彦 (1966) 西中国山地の動物, 西中国山地国立公園候補地学術調査報告, pp. 89~133 (ref. p. 127)

これらに記録されたハムシは22種をかぞえるが、その大部分は宮本・草薙 (1936) によりこの地方から報告されているものであり、わずかに *Aulacophora femoralis* (奥三段缺より) と *Galerucida bifasciata* (三段缺より) の2種が新記録となつてゐる。もちろん両種とも広島県の他の方面より既記録のものである。

県下で記録されたウスモンヒラタハバチ

近 藤 光 宏

倉敷市住吉町 231

Pamphilus jucundus Takeuchi

ウスモンヒラタハバチ 1 種

岡山県真庭郡川上村明連渓谷 V. 24. 1964

重井博採集

県外のものとして 1 ♀ 八ヶ岳 VII. 24. 1965

重井博採集

本種の属している *Pamphiliidae* ヒラタハバチ科は、*Sympyta* 広腰亞目の中でも種数の比較的少ないグループである。本科独特の複雑な翅脈をしていて成虫の形態はさながら原始的である。これまでほとんど専門家に同定を依頼していたが、*Sympyta* のもので前翅縁脉の下にこのような紋のある種は限られており、本種の場合鱗翅による検索も可能であろう。

筆者は、常に1955年発行された北澤館「原色昆虫大図鑑」(III) plate 122 P 243をもとに同定を試みたが、その結果下記のような類似した点をあげることができ、本種にまちがいないと考えられる。勿論県下初の記録として採集者に変わり報告する次第である。

I. Fig のように *Neurotoma* 属は、亜前縁脈が前縁脈に達しないが、*Pamphilus* 属のものは分歧して前縁脈に達している。前縁脈



II. 翅は淡黄色をおび緑

紋の下方にはば円形
の暗色部がある。



III. 体長12mm内外 (実際
には13.5mm)

IV. 頭は黄赤色で単眼域

と単眼後区は黒色で
ありまた殆んど点刻
を欠き光沢が強い。Fig. *Pamphilidae* 前翅の一部

亜前縁脈

Pamphilus 属

V. 触色は黄褐色で、先半分は黒色をおびる (実際には
先3/7位)

VI. 胸部は黒色で黄色斑がある。

VII. 腹部は橙色で末端4節は黒色 (実際には黒色の部
分が末端より5節目にも半までかかっている)

VIII. 分布 本州、九州、四国

倉 敷 の 蛾

楳 本 精 二

児 島 市 林 7 9 0

会員山祇河朗氏より下記の倉敷市産の蛾を恵与されたので記録して感謝の意を表します。

記

1. シロスジカラスコトウ
Amphipyra tripartita tripartita Butler
1963年 倉敷市鶴形山
2. アオバセダカヨトウ
Mormo muscivirens Butler
1963年 倉敷市鶴形山
3. シロモンフナヤガ
Eutelia sinuosa Moore
1963年 倉敷市

岡山県未記録品、近県では兵庫県柏原⁽¹⁾ 広島県宮島⁽²⁾ の記録あり。本州では稀な種である。

4. モンキムラサキクチバ
Ercheia umbrosa Butler
1963年 倉敷市

参 考 文 献

- (1) 山本義丸 (1958) 兵庫県氷上郡昆虫目録氷上の自然第3号: 21.
- (2) 清水健一 (1964) 鹿島(宮島)の注目すべき蛾類。広島虫の会会報, 3: 63~64.

交 換 誌 紹 介

Nature Study	vol. 10 • No. 12~vol. 12 • No. 4	
		大阪自然科学研究会
Insect	vol. 14, No. 2 ~vol. 16, No. 3	
		昆虫愛好会
New Insect	vol. 7, No. 17~vol. 9, No. 26	
		長野昆虫同好会
熊本昆虫同好会報	10巻2号~11巻2号	
		熊本昆虫同好会
Odonata	No. 17	日本蜻蛉同好会東海支部
Tinea	7巻 1号	日本蛾類学会
蛾類通信	No. 30~No. 43	同 上
ひらくら	vol. 8, No. 5~vol. 10, No. 4	
		三重昆虫談話会

北九州の昆虫	vol. 12, No. 1	北九州昆虫趣味の会
WORM SHIP	No. 77~No. 84	同 上
佳香蝶	vol. 16, No. 57	名古屋昆虫同好会
ハトの使い	No. 26~No. 31	昆虫団体研究会
広島虫の会々報	No. 4	広島虫の会
広島虫の会雑報	5号~10号	同上
KORASANA	vol. 4, No. 2~vol. 5, No. 2	
		久留米昆虫同好会
久留米虫だより	No. 6	同 上
SATSUMA	vol. X III, No. 2~vol. X III, No. 1	
		鹿児島昆虫同好会
アルボ	No. 18~No. 20	同上
昆虫研究	No. 1~No. 5	函館昆虫同好会

今 年 の 冬 採 集 し た 蛾

田 辺 恒 彰

倉敷市戎町 703

今年の冬(1965, XII~1966, II)に蛾の採集を行つた結果、18種を記録できたので発表します。

ヤガ科

1. キバラモクメ
倉敷市旭町 XII. 26
2. ウスミミモンキリガ
Eupsilia contracta Butler
倉敷市旭町 XII. 4
稀な種である。
3. カラスヨトウ
倉敷市旭町 XII. 4
4. フサモクメ
倉敷市旭町 XII. 4 II. 26
5. イチジクキンウワバ
倉敷市旭町 XII. 4 2exs.
6. ヒメクビグロクチバ
倉敷市旭町 XII. 4
7. フクラスズメ
岡山駅前 XII. 3
岡山市東山 II. 15 II. 23
8. アカエグリバ
倉敷市旭町 XII. 4 2exs.
9. アケビコノハ
倉敷市旭町 XII. 4
倉敷駅前 XII. 26

10. サザナミアツバ
倉敷市旭町 XII. 4 2exs.
11. テングアツバ
Latirostrum japonicum Miyake
倉敷駅前 XII. 4
少ないらしい。
12. アワヨトウ
倉敷市旭町 II. 26
13. キノカワガ
倉敷市旭町 XII. 4
岡山市東山 I. 14
倉敷市旭町 II. 26
14. クロスジフユエダシヤク
岡山市東山 XII. 2
15. シロオビフユエダシヤク
倉敷市鶴形山 XII. 26
16. シロフフユエダシヤク
倉敷市旭町 II. 20 10exs., II. 21 3exs.,
II. 26 8exs.
17. フトジマナミシヤク
倉敷市旭町 XII. 4 2exs.
18. トビモンオオエダシヤク
倉敷市旭町 II. 26

交 換 誌 紹 介

エゾシロ No. 31~No. 34
誘蛾燈 No. 22~No. 24
愛媛の自然 7巻5号
ちやつきりむし 5号

函館昆虫同好会
誘蛾会
愛媛自然科学教室
静岡昆虫同好会

駿河の昆虫 No. 48~No. 52
筑紫の昆虫 10巻2号
生物研究誌 第3号~第4号 福岡県立築上農業高校
大自然 No. 9~No. 11 岐三津田高校生物同好会

1965年度会計報告

借 方	金 額	貸 方	金 額
会 誌 印 刷 費	40,000	前 年 度 繰 越 金	935
通 信 費	5,755	会 費	27,400
事務用 品 費	100	広 告 費	17,550
雜 費	1,520	会 誌 売 上	620
本 年 度 欠 捐 金	- 780	雜 収 入	90
計	46,595	計	46,595

Kuraruua rhopalophoroides Hayashi

クビアカモモヅトホソカミキリを臥牛山で採集

重 井 博

本種は1949年6月16日、奈良市春日山で発見され、1950年6月11日にも同山のクリの花から採集され、1951年に林匡夫氏により昆蟲学評論第五卷第二号に新種として発表された。以降毎年初夏に、ごく少数づつ採集されているとのことであるが、その他からは報告例がなく、近く1954年と至つて3月2日、南部疏琉の西表島ウシク森で1頭採集され、1965年 Samuelson 及び Gressitt によって古種と同定された。

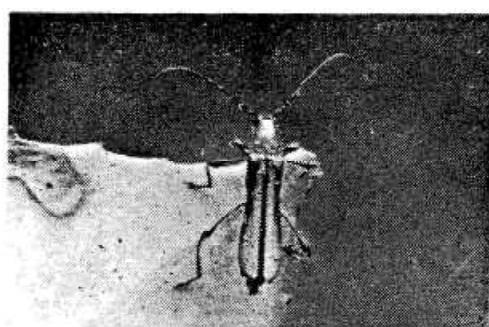
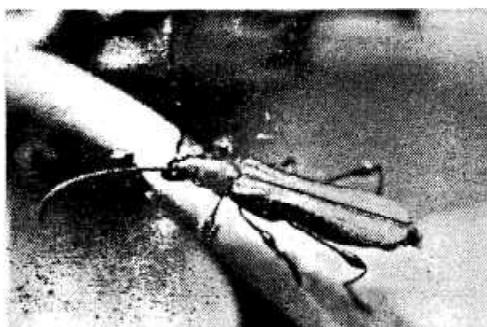
ところが1966年5月1日、岡山県高梁市臥牛山のウラジロガシ貨上で3頭採集されたとのことで調査を重ねた結果、1965年5月10日に *Ilex latifolia* Thunb (タラヨウ) の花で1頭、5月14日には同じくタラヨウの花に群棲している十数頭を発見、その中6頭を採集し、その他は放棄した（その後同好会員の三氏によ

つて更に數頭採集されている）。

春日山では6月中旬クリの花で採集されているが、臥牛山では5月1日に発見され、5月中旬にタラヨウの花に棲り、最後は6月12日に飛翔中を採集されており、発生期間は可成り長い様である。

なお臥牛山は奈良の春日山と同じく低山地であるにもかかわらず、可成りよく保護された原生林（暖帯林性）で覆われていて、カミキリムシの宝庫とも云える山であるが、特に本種は運動が不活発で、採集され易いため、乱獲は厳に戒めたいものである。

最後に御懇切な御教示を賜った林匡夫氏、貴重な生態写真を快く御提供して頂いた宇野弘之氏に感謝の意を表します。



林匡夫先生をおまねきして

昭和41年1月23日(日) 林匡夫先生(大阪城南女子短期大学教授)をかこんで、ご専門であるカミキリムシの話をはじめ、広くは昆蟲全般についても親しくご講演をうけたまわりました。

先生の豊富な知識と優れた才、ユーモラスで、いとも流暢な話し方から受けけるムードは、まさしく剣木にみせられて集まるカミキリ同様、いつときにくつと私

達をひきつけてしまった。残念にも不参加の皆様にはあじわつていただくことができません。せめてもそのときのもようを下記に報告して、ご参考に供します。

日程 A.M. 9.00~12.00 同定会(カミキリムシ)

寄書 参加者全員による。

写真 倉敷昆虫館前で撮影したもの、前より2列右から3人目が林匡夫先生(提供宇野氏)

開業記念
 謹啓
 本日は開業記念の祝賀会にて
 謹此お祝いを表す
 1966-1-23
 ドクトル・ザーメン
 医院
 夫
 人



ドクトル・ザーメン採集回顧録 (9)

“曇り一時晴れ”

ニジマス釣りに興じる

ドクトル・ザーメン

“曇り一時晴れ”的天気予報だ、そのうちあがるだろうと期待をもち続けてとうとう雨の中を奥津温泉までできてしまった。出るに出られず引くに引けないとあつて、結局は雨傘片手に捕虫網ならぬ釣糸をたれる破目となってしまった。有名なマス養魚場にしばしの雨宿りとしやれこんだわけだ。せいぜい5m平方の小さい池に確実に魚がいるのである。釣れないのがおかしくない。我がちにと糸を投げこんだのが皆あつという間に餌をとられてあわてている頃、ドクトルは悠々と糸をたれた。と、かすかなあたり。忽ちにして250gほどの奴を釣り上げた。

それぞれ釣った魚は刺身と塩焼きに、奇しくも今日は5月15日の食敷祭り、奥津で祝うのもまた一興と酒くみ交わしてニジマス料理に舌づみをうつたのである。もつとも赤枝一弘氏の釣り上げた一匹はあまりにも小さく『これは“番外”です』ということでもとの

池に帰してやつた。よりによつて、赤枝氏も殺生な話である。

塩焼きはまさに天下一品、釣つて持ち帰ろうではないかということになつた。この前のこともある、今度はゆつくりと釣りを楽しみたい。早く喰いつくなよと念じつつ、糸をたれたが、とたんに200gの恐らくさであろう喰いついた。大物をひつかけたのは重井亮良と青野氏である。350gほどの奴を長時間かかつて物にした。腹はふつくらとならない。

午後1時過ぎようやく見えて来た青空に、腕をさすりつつ本塙の採集に再出発したのである。ここにしてようやく気がついた。“一時晴れ”とは午後一時に晴れるということなのだ、時刻を示していたのだと。天気予報の何と正確なことよ。時刻までの確に示せるとは科学も進歩したものではある。

お と し ふ み 特 集

レールにとまつたコバネカミキリ

近 藤 光 宏

倉敷市住吉町231

Psephactus remiger Harold (1879)

コバネカミキリ lex.

vii. 21. 1964, 斎見市方谷～井倉(草間嶺)

2年前のこと、夏過ぎスクーターをとばして、草間嶺に向う、その頃飼育中のニシキキンカメムシの食草を求めて……。

一応目的を終えて、夕やみせまるV字渓谷の伯備線線路上を、列車を気づかいながらてくてく歩いて帰途につく、足もとの暗さに比して空はまだ明るい、折から頭上すればそれ1匹の甲虫が旋回して、空の明りを反射して、ぶきみに光る道路上にパチンと音をたててとまつた。直観で、腹部の長いノコギリカミキリのやだと思つて、たいがうように管びんに納めた。

その後、区鑑により、成虫は7・8月頃の出現で夕刻飛出し幼虫はブナノキの朽木に寄生するコバネカミキリとわかつた次第である。

本会青野氏の言によれば、県下での記録は、極く稀で、備中地区ではこれが初記録のことである。思わぬ拾い物をしたわけである。

なお個体は、倉敷昆虫館に展示所蔵した。

アカスジキンカメムシを琴平で

近 藤 光 宏

アカスジキンカメムシ

Poecilocoris lewisi Distant

iv. 29. 1966 香川県琴平

その日、水島一丸丸間を新設のフェリーに乗つて琴平参り、境内、その付近一帯は予想にたがわざ原生林におおわれている、参道を、ほほ登りきつた石段に本種終令幼虫lex. が、参拝者にふまれて落ちていた。

分布は、本州・四国・九州と広いが、ほとんど点在し稀で、山地の樹間で発見されるようである。かつて新潟県に四国での本種飼育のちようが報告されていたことを想起する。

倉敷市でケブカヒラタカミキリを記録

山 砥 司 朗

倉敷市栄町606の2

Nothorhina punctata Fabricius

ケブカヒラタカミキリ

岡山県倉敷市 1962年8月4日 lex.

山祇克己採

本種は倉敷市栄町の水銀燈に飛来してきたもので県内未種記録であるとのこと。

体長9.5mmの小形種で背面は暗褐色。触角及び肢を破損した不完全な標本であるが前胸背両側に顆粒状点刻を有し、その他「原色昆虫大図鑑」(北隆館)に記述されている内容と一致する。

標本は筆者所蔵。

倉敷産タマムシ數種

山 砥 司 朗

1. *Niptenclutrestis quercesti* E. Saunders

クロマグラタマムシ

倉敷市鶴形山 lex. V. 24. 1962

当地において他に数回、死骸を目撃している。

2. *Chrysobothris ohbayashii* Y. Kurosawa

オオムツボシタマムシ

倉敷市片山 lex. iv. 20. 1963

北隆館発行原色昆虫大図鑑によると「成虫は、5～7月に出現するが稀。分布：本州（近畿以西）四国・九州。」とある。採集した場所は町はずれの松林を主とした丘陵地で、闇葉樹伐採木上を歩行していた。

体長8mmで他のムツボシタマムシとは、かけはなれて大きくムツボシタマムシ *C. succedanea* にくらべ上翅の点刻及び縦隆脈は弱い背面は濃褐色であるが体下面は銅緑色の金属光沢を有し腹部背板は美麗な青藍色の金属光沢を有する。

3. *Chrysobothris succedanea* E. Saunders

ムツボシタマムシ

倉敷市鶴形山 lex. 1961

4. *Anthonomus proteus* E. Saunders

ヒメヒラタタマムシ

倉敷市鶴形山 lex. V. 24. 1964

体長4mmの小形であるが全体緑色を呈した美しい種である。

5. *Paracylindremorphus japanensis*

E. Saunders

キソツツクマムシ

介敷市鶴形山 1ex., VI, 12, 1962.

Agrilus に比べ、より細く、頭部の形、複眼の位置を異にする。

熊の湯産甲虫数種

山 砥 司 朗

去る1965年夏に天城高校の修学旅行として長野県志賀高原を訪れたが、その際、寸暇を見つけて採集することの出来た数種甲虫を紹介する。以下すべて

1965年7月29日 長野県志賀高原熊の湯付近 筆者採

1. ブヤケシハナカミキリ 2♂ 1♀
ミは肩部赤色の m. *humeralis* Ohi et yoshi
2. アオバホソハナカミキリ 2exs.
3. ヤツボシハナカミキリ 2exs.
上翅は黒化して基部及び肩部後方の側縁黄色紋を現わす m. *miyamae* Ohbayashi に相当する。
4. *Dicyoptera elegans* Nakane et J. Winkler
クロバヒシベニボタル 1ex.

原色日本昆虫図鑑(保育社)によると「稀な種で、その色彩により容易に他の種と区別できる。」

分布: 本州(中部高地帶) とある上翅は黒く前胸は赤い。

5. ヒメアシナガコガネ 1ex.

なにぶん団体旅行ゆえに、あまりハテに活動出来なかつた次第であるが、ちょうどシシウドその他の花が満開の状態で、多数のヒヨウモンやタテハの類が飛びかい、ハナカミキリ等は時間さえあればいくらでも得られたことと思う。尚、上のほかにアオハムシダマシクビナガムシ、アオジョウカイ等を目撲した。

Trichius japonicus Jenson

トラハナムグリの記録

山 砥 司 朗

本種はすでにすすむし誌上において報告されているが、その他に次の様な記がある。

新見市足立 1ex., VI, 7, 1964, 筆者採
高梁市広瀬 1ex., VI, 7, 1964, 高橋友治採
吉備郡昭和町根 3exs., VI, 6, 1965, 筆者採

南アルプス採集行メモ (III)

水 野 弘 造

§ 雜 甲 虫 (そのII)

○ シデムシ科

ヨツボシモソシデムシ

○ ハネカクシ科

ハスオビキノコハネカクシ

ほか2種

○ デオキノコムシ科

エグリデオキノコ

ヤマトデオキノコ

ヒメデオキノコ

ヒメセスジデオキノコ

ヤマトホソケンデオキノコ

○ クチキムシダマシ科

オオクチキムシダマシ

○ ナガキクイムシ科

ヤチダモノナガキクイ

○ キクイムシ科

カシワノキクイムシ

ミカドキクイムシ

○ クチキムシ科

ホソクロクチキムシ

クリイロクチキムシ

○ テントウムシ科

アカイロテントウ

○ ナガハナノミ科

エダヒゲナガハナノミ

○ ゲンゴロウ科

コシマゲンゴロウ

モンキマゲンゴロウ

○ ヒラタドロムシ科

ヒメヒラタヒゲナガハナノミ

○ コメツキダマシ科

ナガコメツキダマシ

ナガミゾコメツキダマシ

ムナクボミゾコメツキダマシ

○ コメツキモドキ科

ルイスコメヅキモドキ
 ヒヨウカイモドキ
 ヒメジヨウカイモドキ
 ホタルヒ
 オバガタル
 ジヨウカニイシシ科
 ジヨウカニイボン
 フナジヨウカイ
 クリイロジヨウカイ
 ヒメクビボソジヨウカイ
 ヤボシジョウカイ
 ヒラタムシ科
 ハバヒラタムシ
 ハシミヨナホ
 ミヤマハシミヨウ
 ナゾトビゴミムシ科
 アトマルホツクビゴミムシ
 コホソクビゴミムシ
 ヒグナガザムシ科
 ホジヒグナガザムシ
 ヒクヌストモ
 チビコクヌスト
 ハジロウムシ科
 アノモドキカツコウ
 ムナグロナガカツコウ
 イザラシセツコウ
 ケシキスノムシ科
 アオハラケシキスイ
 ケモンケシキスイ
 オオキマゲラケシキスイ
 キノコヒラタケシキスイ
 ヒコムシダマシ科
 ホソスナゴミムシダマシ
 コスナゴミムシダマシ
 ケフガタゴミムシダマシ
 クロツヤキノコゴミムシダマシ
 ヨツコブゴミムシダマシ
 コブツノゴミムシダマシ
 ヒメキマワリ
 ホソヒゲナガキマワリ
 コマルキマワリ
 ヒメナガキマワリ
 ウスカラゴミムシダマシ
 本付では食性のものが意外に多くなかつた
 ハムシダマシ科
 ハムシダマジ
 アオハムシダマジ

他に不明種 1
 ○ カミキリモドキ科
 クロカミキリモドキ
 スジカミキリモドキ
 メスグロカミキリモドキ
 キクビカミキリモドキ
 アオカミキリモドキ
 アイスカミキリモドキ
 ミヤマカミキリモドキなど山地性のものが意外に
 居なかつた。
 ○ タマムシ科
 ナガタマムシ 2 種
 ○ オトシブミ科
 微小種 1 のみ。
 ○ オサムシ科
 マルクビゴミムシ 2 種
 ○ ゴミムシ科
 ヒメキベリアオゴミムシ
 ハネアカナガゴミムシ
 クロヒゲアオゴミムシ
 ノグチアオゴミムシ
 キンイロマルナガゴミムシ
 そのほか図鑑では判定しえない種がかなりある。
 ○ ハムシ科
 ○ ゾウムシ科
 この 2 科については図鑑では判定しえないので、機
 会あれば有識者に同定願つて発表することにしたい。
 ただ種類数はどちらもきわめて少なかつた。
 § チョウウ
 当南アルプスは北アルプスに優るとも劣らぬ標高の
 山々を有していながら蝶相は貧弱で、蝶だけの採集が
 目的の人には決して推められない。同じ行くなら北アル
 プスか八ヶ岳の方がずっと良い。高山蝶で多く採れる
 のはベニヒカゲとクモマベニヒカゲだけであり、三
 伏峠に多数、東俣でも少數見た。5、6月にはクモマツ
 マキチョウがかなり採れるといい、土居は二軒小屋に
 手伝いに来ていた中学生の女の子から春採つたものだ
 と云つて一頭貰い大喜びしていた。中村は前年來た際
 捕虫網を東海パルプの伐材人夫にあづけて捕獲を頼ん
 でおいたおかげで夏に登山して勞せずして 7 頭も三角
 術に収めることができた。一枚上手である。オオイチ
 モンジとヒオドシは極めて少く、ヒオドシは東俣
 で 1961 年少數したものを 1 頭採つただけ、オオイチモ
 ンジは確かに昔て高橋氏が採集されたほか 1963 年に中
 村が 1961 年に土居がそれぞれ発見し目の色をえてず
 い分追つたにもかかわらずついにネットにしえなかつ
 た。ミヤマシロチョウは広く見られるが数はあまり多

くない。そのほか目に付いたものではツマジロウラジヤノメがかなり多く、シジミでメヌアカミドリ、ショウザンミドリ、オオミドリ、ミドリ、ウラクロ、タテハでシータテハ、エルダテハ、クロコムラサキ、セセリでキバネセマリ位で他はどこにも見られる普通種ばかりである。草原性のゴマシジミ、ヒヨウモンモドキなどは全く居ない。

ミガ

二軒小屋の宿の隣に東電の貯水池があり、水銀灯がつくので蛍は非常に多数飛来する。中には二軒小屋特産のコクレヨトウなどもある。土居は螢光灯とアセチレンランプとを両方持つて行き電気のある所では螢光灯、山上ではアセチレンと意気込みだけは貴かつたのであるが、収穫はどうももう一つというところだつた三伏峠のアセチレンにはアルブスヤガ、タカムクカレハなど高山性の蛍が若干飛来したもの、質、量とも甚だ少く、春田俊郎氏などという蛍屋さんの飛来の方が収穫というべきか。塩の湯での螢光灯に集來した大部分は低山性普通種でがつかりした。蟻以外のイガラシカツコウとかキイロゲンセイなどの方が記憶に残っている。以下は上居と私の標本箱の中に収録されたもののうち図鑑で名前の判明したものであるが、明らかに特徴あるもののほかは同定にあまり自信のないことをお断りしておく。

○ スズメガ科

クルマスズメ
ホソバスズメ
クロスキバホウジヤク
クロテンケンモンズメ

○ ヒトリガ科

ショウザンヒトリ
ペニシタヒトリ

このほかにヒトリガを確かに目撃した。

○ ヤガ科

ハイモンキシタバ
ノコメキシタバ
マメキシタバ
オニベニシタバ
エゾシロシタバ
カラフトゴマケンモン
アオバハガタコトウ
コグレヨトウ
アルブスヤガ
マエウスヤガ
ナマリケンモン
オオチセイロヨトウ

クシヒゲモンヤガ

マルモンシロガ
オオホソアオバヤガ
シロフコヤガ

- レヤチホコガ科
ギンモンズメモドキ
ハガタエグリシャチホコ
クスギシヤテホコ
ギンモンシヤチホコ

○ ドクガ科

パンタイマイマイ
カシワマイマイ
マイマイガ

○ カレハガ科

ミヤケカレハ
タカムクカレハ
ツガカレハ
ギンボシカレハ
カレハガ

○ トガリバ科

オオマエベニトガリバ
キマダラトガリバ
モントガリバ
ウスジロトガリバ
フタテントガリバ

○ カギバ科

ウスオビカギバ

- シヤクガ科
ウスキナカジロナミシヤク
キマダラオオナミシヤク
ハガタナミシヤク
モトクロオビナミシヤク
サザナミナミシヤク
ヒメカバヌジナミシヤク
シロホソオビクロナミシヤク
シロマダラナミシヤク
ヒロオビナミシヤク
ミヤマナミシヤク
トビスジコナミシヤク
キイロエグリヅマエダシヤク
シロモンクロエダシヤク
キマダラツマキリエグシヤク
コツマキウスグロエダシヤク
ヒロオビニグシヤク
クロフキエダシヤク
オオナカホジエダシヤク
フタヤマエダシヤク

- ヒツメオオジロヒメシヤク
ムラサキエダシヤク
○ コウモリガ科
キマダラコウモリ
○ メイガ科
マエグロノメイガ

以上で私の南アルプスメモは終りである。タカホキマグラセセリの再発見とか北岳頂上のはい松にはヒメクビアカハナカミキリがぶんぶん飛び交つているとか云う話を聞く度に、あの雄大な山々へもう一度と強いあこがれを禁ずることができない。

なお目録には和名だけを使って学名を併記しなかつたが、これは私が図鑑を参照して種名を決定したものであるため、同定に信用が置けぬ場合はかえつて和名だけの方が良かろうと思つたためである。従つて専門家に同定を頼つたコメツキだけ学名を付記した次第である。その点お許し戴きたい。同定に使つた図鑑は北隆館「原色昆虫大図鑑」ⅠおよびⅡである。

(完)

(訂正)

カミキリの項78) エゾトゲムネカミキリは、ゴイシモブトカミキリの誤りでした。訂正しおわびします。

Maddester

雑 言 錄 (4)

水 野 弘 造
宇治市戸ノ内 日本レイヨン小桜

◆蝶と蛾(その4)

前に蝶の翅は前後翅を通じて模様が連続し蛾は不連続であることについて論じた。これに関連して一言しておきたいことは、蝶や蛾の標本の作り方についてである。昆虫採集について興味を覚えると同時に誰でも習うのが蝶の裏翅方法であり、前翅の後縁が胴体に対し直角になるように翅を展だて固定し乾燥させる

(図A)。成虫出来上りの標本はチヤンと標本らしく体裁が良いが、自然の姿を損うこと甚しい。蝶は自然状態では決してあのような体勢で静止することはなく、前後翅の模様がちゃんと一連の模様であることを証明するように止るのである(図B)。無理して前翅を前に覆はせば模様の連続が断たれるのみならず、前翅でおおわれていた後翅前縁の模様の薄い所が露出してしまう(図Aにて縦線)部。この露出を最小限に防ぐため後翅も前方に覆はす。するとふかふかの毛で折角

胴体を包んでいた後縁部もひろげられて露出し(図Aにて横線部)、胴体を中央線として左右連続していた後翅の模様は遙かに隔てられ切断される。つまりはば扇形に連続していた左右前後翅を四つの部分に裁断した恰好になる。いわば折角のワンピースを腰のところで二つに切つて下着をはみ出させ、更に下のスカートを中央で二分してわざわざズロースを露出させたようなど丁寧な恰好なのである。習慣とは恐ろしいもので、これに慣れるところいうふうに規則的に覆翅されていない標本は標本とも思わなくなり、かような規格化に何の疑問をも抱かなくなるのであるが、一体このような下らぬ約束は誰が定めたものであろうか。これも學術標本としてみるならば許せないことでもあるまいが一見して異様に感じるのは絵画などの中にこのような姿で現われる時である。作者はおそらく誰かの標本を見るなり図鑑を見るなりして絵にするのであろうが

図 A

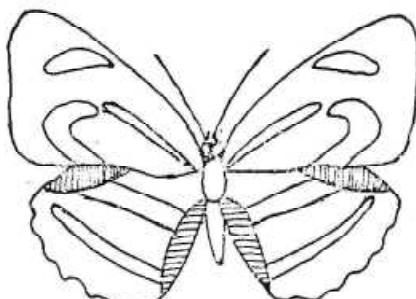
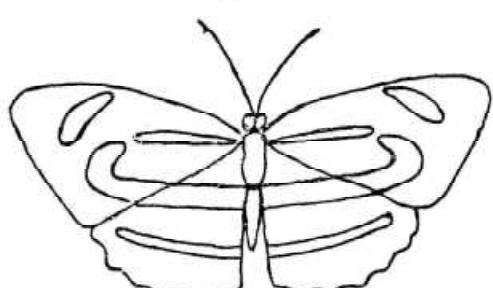


図 B



画家としての観察眼を疑われても仕方がないことになろう。誰かの文の中でメスジロキチヨウの訪花している絵について真実の姿でないとの批評を読んだことがあるが、私も昼行性の蝶や蛾が針に集つた姿を見たように記憶する。しかも全部が全部標本のようなハリツケ姿で灯のまわりを飛んでいたのである。

昔の人はこういう点も実によく注意していたとみえて、松村松年『日本昆虫大図鑑』(1931年力江書院)に描かれたミスジチョウの類は殆んど三本の白線が前後翅でちゃんと連続するような姿勢で(従つて翅が少し後に反つた状態で)絵になつてゐる。さすがに松村先生だけのことはある。折角のミスジチョウも現行の標本作成法ではヨスジチョウに見誤らざるもかぎらない(前図AおよびBを比較参照)

蝶についても静止体勢で模様が連続することには變りない。後翅の模様が前翅と全く異なる種類では後翅は完全に下に隠れ前翅だけ左右がくつついて一つの模様を形成する。このような種類の蝶を無理に展翅すれば蝶以上に無理が生じ結果はどう眺めても美しいものはならず増々人気を落すほかはない。たとえ模様は美しくなくとも静止姿の奇妙キテレツな蝶が多いことは周知の通りである。このような特徴も翅を展げてしまうと一向に發揮できず陳腐なキタナ蝶に落ちぶれてしまう。

M君はかつて「蝶は羽根のきれいな方の側を人に見せるように止る」という名言をはいた。すなわちタテハは表がきれいだから翅を広げて止り、ウラギンシジミは銀光まぶしきを見せようと翅を閉じて止る。裏のみならず表も美しいヤマトシジミは翅をこすり合せて表側もチラチラさせることを忘れないといふのであるこの定理は更に拡張して「蝶や蛾は形、模様が最も美しいように止る」。としなければならない。現行の蝶蛾標本作成法は自然美を破壊しない方向に改める必要はなかろうか。

以上の論旨に対し Maddester 連は一様に、何を下らぬ寝言を言つてゐるかというような顔で関心を示さなかつたが、意外にもクソムシ屋の春日琉璃氏が賛成したようだつた。彼の曰く「僕は自然の姿を損なわぬよう虫は皆自然の姿のまま針に刺す」と。よく見ると春日琉璃氏のクソムシ標本は皆手足をダラリと下げたまま針に刺されており整形されていなかつた。しかしコト甲虫に関しては整形板上で手足を整えた形の方が自然の姿に近いのであり、手足を後方に下げた恰好はあれは盗版の中で昇天した後の恰好なのである。

◆ アブハチ採らず

洋の東西を問わず診には訳のわからぬものがあるも

ので、英題の *A rolling stone gathers no moss* (転石苔むさず) などは一体苔のついた石が良いのか悪いのかどうもわからない。高等學校で習つた時は職業を変えると金が貯まらぬ意とのことであつたが、歐米では職業を変える度毎に給料も上るし地位も上るということをよく聞く。とすれば毛唐は石は常にビカビカ光るもののが良いのであり従つて石は転がるものが良く、苔むす石を貯めとするのは千代に入千代にさざれ石が大きくなるの待つ国民位のものだという解釈も成立とう。さて石や苔はどうでもよいとして、吾國の『アブハチ取らず』という諺が問題である。誰に聞いてみても「二兎を追う者一兎をも得ず」と同意という解釈なのであるが、兎ならばつかまえれば獲の足しにもなろうし食いたくなければ飼つて可愛がつてやろうかという氣も起きようが、さてアブやハチは取つてどうしようというのであろう。大抵の者はこの質問に口をつぐんだが某氏は次のように名解釈をやつてのけた即ち、平素裸で生活していた古代人は常にアブやハチの腹巣に悩まされたいたるからこれを取るというのを取つて殺そうとの意図である。しかしそく考えてみるといかに現代は虫が嫌り古代は虫が多かつたとしても、アブはいざららず、ハチの中で積極的に人間を襲う種類がやたらと居たとは思えないのであつて、従つてアブとハチが同時に人間を襲つて来る確率は非常に小さいものと考えなければならない。「守株」の出典などは非常に小さい確率の故事によつてゐるので、あるいは確率が小さいということは反論の根拠にはならないかもしれないが、あまり自然な解釈とも云えまい。私は現在のところ次のように考えるに至つた。即ち、吾等の祖先、大和民族は太古から風流を愛する者多く、昔から昆虫採集家の人口が相当に多かつた。このことは数百年から虫愛する姫君の話など伝わることからも明らかであり、シャーロックホームズあたりになつて始めて蝶のマニアなどが文学上に出現する歐米とは比較にならぬ程古くから昆虫採集家が居たことを示している。即ち『アブハチ取らず』は二匹の虫を同時につかまえようとして結局失敗した(当時はネットなど無かつたであろうから手でつかまえるほかなかつた)吾々日本の虫気遣いの先祖の姿を描写した諺に外ならない。

それにしてもアブやハチを取ろうとは御先祖様もよくよく妙な虫を集めたかつたものである。當時すでに素手でハチをつかまえることを知つていたとすれば大変な知識と云わねばなるまい。

この諺について正確な故事未歴ないし解釈をお教えいただきたいものである。

目 次

広島県のハムシ相 (大野正男)

Ohno, M. : The Chrysomelid-Beetles from Hiroshima Prefecture, Honshu, Japan	1
県下で記録されたワスモンヒラタハバチ (近藤光宏)	11
倉敷の蛾 (榎本精二)	12
今年の冬採集した蛾 (田辺恒彰)	13
クビアカモブトホソカミキリを臥牛山で採集 (重井 博)	14
林玉夫先生をおまねきして.....	14
ドクトル・ザーメン採集回顧録	15
おとしへみ	
レールにとまつたコバネカミキリ (近藤光宏)	16
アカスジキンカメムシを琴平で (近藤光宏)	16
倉敷市でケブカヒラタカミキリを記録 (山砥司朗)	16
倉敷産タムシ数種 (山砥司朗)	16
熊の湯産甲虫数種 (山砥司朗)	17
トラハナムグリの記録 (山砥司朗)	17
南アルプス採集行メモ (Ⅲ) (水野弘造)	17
Maddeste 雜言録 (4) (水野弘造)	20
交換誌紹介	12, 13
新入会員	12
1965年度会計報告	13

医療法人

重 井 病 院

倉敷市幸町 T E L 代表 ②3655